

2025年2月5日

関係各位

野村ホールディングス株式会社  
 コード番号8604  
 東証プライム市場・名証プレミア市場

## 奥田グループCEO決算コメントおよびハイライト (2025年3月期第3四半期 連結決算)

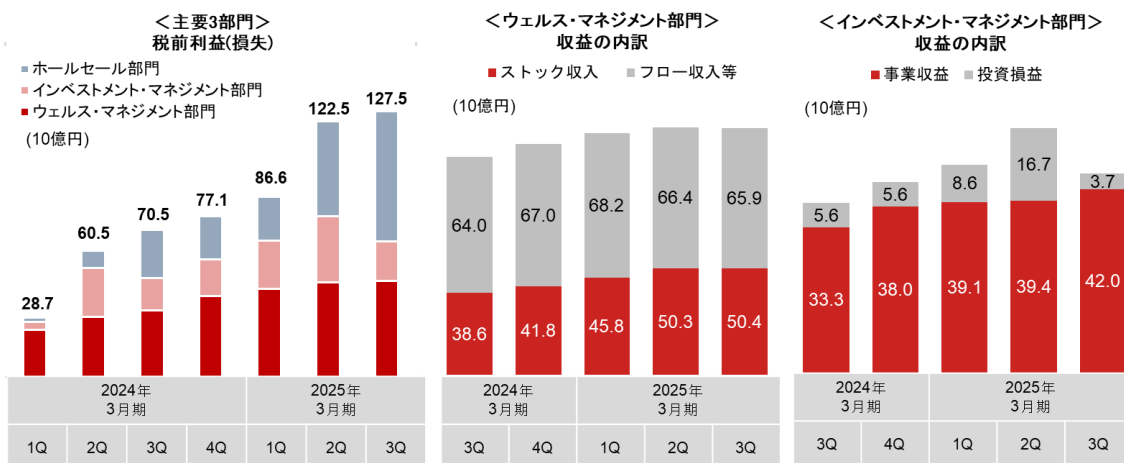
野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:奥田健太郎、以下「当社」)の2025年3月期第3四半期(2024年10-12月、以下「当四半期」)連結決算概要をお知らせします。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は5,020億円(前四半期比4%増、前年同期比25%増)、税前利益は1,383億円(同4%増、76%増)、ROEは11.8%となりました。

ウェルス・マネジメント部門では安定収益のストック収入が過去最高を更新し、インベストメント・マネジメント部門でも運用資産残高が過去最高、安定収益の事業収益も部門設立以降最高となりました。ホールセール部門では、インベストメント・バンキングの収益が比較可能な2017年3月期以降で最高となり、グローバル・マーケットも7四半期連続で増収モメンタムを維持するなど、全ビジネスラインの増収とコスト・コントロールの継続により税前利益が4年ぶりの高水準となりました。

グループCEOの奥田健太郎は、以下のように述べています。

「当四半期は、全社の税前利益が4年半ぶりの高水準となり、ROEは目標レンジを満たす11.8%となりました。海外3地域の税前利益も4年ぶりの高水準で、全社に占める比率が約4割に達し、収益性の改善を伴いながら拡大を続けています。過去最高の安定収益や増収モメンタムが確認される中、主要3部門の税前利益は2007年4-6月期以来17年半ぶりの高い水準です。今回の決算は、世の中の流れと当社の戦略が一致してきたことを示すものです。具体的には、安定収益の積み上げと収益の多様化等を通じたビジネスポートフォリオの強化に加え、コストやキャピタルの効果的なコントロールを柱とする中長期的な戦略の成果であり、これまでの方向性に自信を深めています。引き続き、日本のフランチャイズを活かしたグローバル戦略の深化を通じて、安定的にROE8~10%+を達成するとともに、税前利益5,000億円超の実現に向けて、新たな挑戦を推進し、ビジネスをさらなる高みへ引き上げていきます」



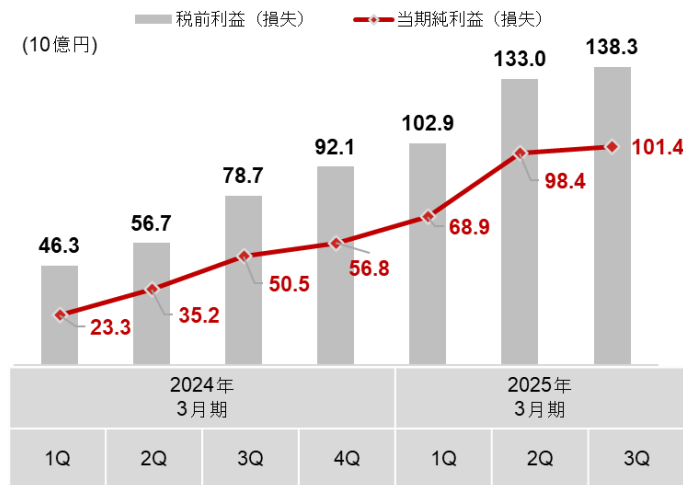
## 決算ハイライト

### ＜当四半期＞

- 全社税前利益は1,383億円(前四半期比4%増)、当期純利益は1,014億円(同3%増)でした。
- 当四半期のEPSは33.08円、ROEは11.8%でした。
- 主要3部門の税前利益は1,275億円(同4%増)、2007年4-6月期以来17年半ぶりの高水準となりました。
- 主要3部門以外では、経済的ヘッジ取引に関連する損失(70億円)やデリバティブに関する自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する利益(13億円)などにより、102億円の税前利益となりました。

	当四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	5,020億円	+4%	+25%
税前利益(損失)	1,383億円	+4%	+76%
当期純利益(損失)	1,014億円	+3%	+101%

全社の税前利益(損失)、当期純利益(損失)

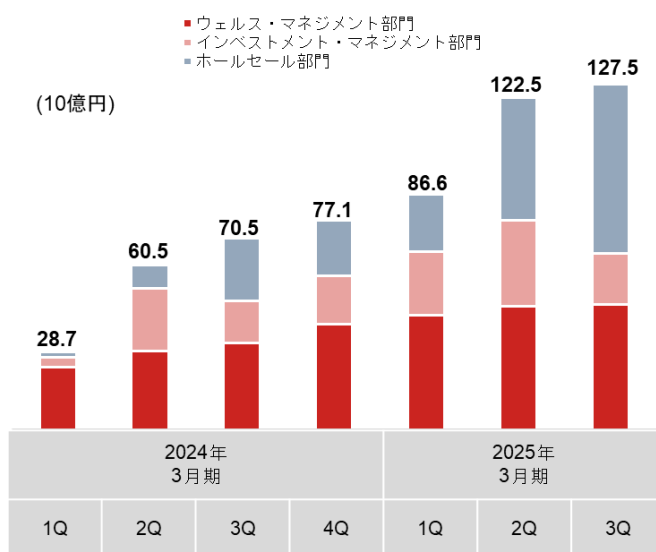


### 主要3部門

- ウェルス・マネジメント部門は、7四半期連続で増益モメンタムを維持しました。安定収益であるストック収入は過去最高を更新、コスト削減の取組みが奏功し、部門業績の安定性はさらに向上しました。
- インベストメント・マネジメント部門は、アセットマネジメント・ビジネスが好調でした。継続的な資金純流入もあり、運用資産残高は過去最高を更新しました。安定収益である事業収益は2021年4月の部門設立以降で最高となりました。
- ホールセール部門は、税前利益が2020年10-12月期以来4年ぶりの高水準となりました。すべてのビジネスラインが増収で、コスト・コントロールの継続もあり、経費率は79%に改善しました。

	収益合計(金融費用控除後)			税前利益(損失)		
	当四半期	前四半期比	前年同期比	当四半期	前四半期比	前年同期比
ウェルス・マネジメント部門	1,163億円	△0.4%	+13%	462億円	+2%	+45%
インベストメント・マネジメント部門	457億円	△18%	+17%	189億円	△41%	+21%
ホールセール部門	2,905億円	+10%	+34%	624億円	+38%	+171%
合計	4,525億円	+4%	+26%	1,275億円	+4%	+81%

主要3部門税前利益(損失)



<2025年3月期 第1-第3四半期累計>

- 第1-第3四半期累計の全社税前利益は3,742億円(前年同期比106%増)、当期純利益は2,688億円(同146%増)となりました。
- 主要3部門は、各部門が収益を伸ばす一方で費用を抑制し、税前利益は3,365億円(同111%増)となりました。

	第1-第3四半期累計	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	1兆4,398億円	+29%
税前利益(損失)	3,742億円	+106%
当期純利益(損失)	2,688億円	+146%

## 主要3部門

- ウェルス・マネジメント部門は、包括的な資産管理ビジネスの提供を推進、ストック収入は前年同期比で3割増加し、税前利益は11年ぶりの高水準となりました。
- インベストメント・マネジメント部門は、事業収益が2021年4月の部門設立以降で最高となり、投資損益も改善し、税前利益が約7割増加しました。
- ホールセール部門は、すべてのビジネスライン、すべての地域で収益が伸長する一方、コスト・コントロールを徹底して、業績は大幅に回復しました。

	収益合計(金融費用控除後)		税前利益(損失)	
	第1-第3四半期累計	前年同期比	第1-第3四半期累計	前年同期比
ウェルス・マネジメント部門	3,469億円	+18%	1,337億円	+59%
インベストメント・マネジメント部門	1,495億円	+35%	741億円	+74%
ホールセール部門	7,988億円	+31%	1,288億円	3.9倍
合計	1兆2,952億円	+27%	3,365億円	+111%

## 【ご参考】

[野村ホールディングス株式会社 2025年3月期第3四半期決算短信](#)  
[2025年3月期第3四半期決算説明資料 米国会計基準\(US GAAP\)](#)

以上

詳細につきましては、[当社ホームページ](#)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2025年2月5日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、[当社ホームページ](#)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2025年3月期第3四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。